

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校穴吹工科カレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	自動車整備学科（2年制）	夜・通信	2,133 時間	160 時間	
	自動車整備学科（3年制）	夜・通信	2,133 時間	135 時間	
工業専門課程	自動車整備学科（2年制）	夜・通信	1,989 時間	160 時間	
	自動車整備学科（3年制）	夜・通信	1,989 時間	135 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://web.anabuki-college.net/disclosure/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校穴吹工科カレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://web.anabuki-college.net/guide/disclosure/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	新聞社代表	令和7年5月～令和9年6月	企画・調整
非常勤	元銀行頭取	令和7年5月～令和9年6月	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校穴吹工科カレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年3月にホームページにて公表する。 ※シラバスの主な記載項目 (1) 授業タイトル(科目名) その授業の科目名を記載します (2) 授業の種類 講義もしくは演習、実習等授業形態について記載します (3) 授業担当者 授業を担当する教員名を記載します 複数の教員で担当する場合は全員の氏名を記載します また、実務経験がある教員の場合はその旨を記載します (4) 授業の回数 授業を行う回数(コマ数)を記載します (5) 時間数 授業時間数を記載します (6) 学年・時期 授業を行う年度および時期(前期・後期)を記載します 単位制の場合は標準履修年次を記載します (7) 必須・選択 必須授業もしくは選択授業について記載します (8) 授業の目的・ねらい 授業の趣旨を記載します 授業を行うのは教員なので、教員を主語として具体的に記載します (9) 授業終了時の達成課題(到達目標) 授業終了時点において学生が修得している必要がある学修成果について記載します 目標を達成するのは学生なので、学生を主体として記載します

(10) 実務経験 実務経験がある教員の場合はその旨を記載します 実務経験がある教員が授業を行う場合は、実務経験をどのように活かして授業を行うかを記載します (11) 授業の内容 授業の各回におけるテーマおよび内容について具体的に記載します ※学生の理解度・実態に応じてやむを得ず変更する可能性もあります (12) 使用テキスト・参考文献 使用するテキストや参考書等を記載します (13) 単位認定の方法及び基準 評価方法の項目について記載します (14) その他 履修上の注意事項がある場合に記載します 事前学習について記載します	
授業計画書の公表方法	https://web.anabuki-college.net/disclosure/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 【学生便覧より抜粋】 (成績評価の評定基準) 各授業科目の成績評価は、シラバスに記載された基準に従い、終了試験の他、出席率、確認テスト、課題、レポート、平常の授業態度や本人の向上心を参考にし、教科担当が100点法で総合的に、A～Dの4段階にて判定する。評定A, B, Cは合格で、Dは不合格である。 2 前項の4段階の評定基準は、次のとおりとする。 A：科目に対する理解及び日常の学習状況等が著しく優秀な者（80点以上） B：科目に対する理解及び日常の学習状況等が良好な者（70点以上79点以下） C：科目に対する理解及び日常の学習状況等がやや劣る者（60点以上69点以下） D：科目に対する理解及び日常の学習状況等が著しく劣る者（59点以下） 3 各授業科目の総合評価に当たっては、当該授業科目担当教員等の意見を勘案し、可否を判定する。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 【学生便覧より抜粋】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目 についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100 点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://web.anabuki-college.net/disclosure/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 【学生便覧より抜粋】 本校は現代社会の要請、とりわけ地元産業界の求める人材の育成を目的とし、実践的な教育研究により、卒業後直ちに役立つ知識・技術を兼ね備えた人材の卒業を認定する。 また、資格を持つと同時に、社会的常識と基本マナーを備え、明るく健康で建設的な意志を持った人材の卒業を認定する。 (卒業) 原則として教育課程表に定める科目を履修し、全科目「C」以上の評価をされている者に対し、校長は卒業を認定する 2 当該学年における年間出席率が 90%以下の者は卒業できない 3 相当の事由がある場合で、卒業判定会議において認められたとき卒業する	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://web.anabuki-college.net/disclosure/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校穴吹工科カレッジ
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf
財産目録	https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_zaisan-1.pdf
事業報告書	https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_jigyohoukoku-1.pdf
監事による監査報告（書）	https://web.anabuki-college.net/download/guide/anabuki_kessan-kansa.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備学科（2 年制）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2, 133 単位時間／単位	864 単位 時間／単位	0 単位時 間／単位	1, 269 単 位時間／ 単位	0 単位時 間／単位	0 単位時 間／単位
			2, 133 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		11 人	0 人	7 人	人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 【様式第2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバス

は毎年度３月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 【様式第２号の３より再掲】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目 についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100 点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【様式第２号の３より再掲】 (卒業) 原則として教育課程表に定める科目を履修し、全科目「C」以上の評価をされている者に対し、校長は卒業を認定する ２ 当該学年における年間出席率が 90%以下の者は卒業できない ３ 相当の事由がある場合で、卒業判定会議において認められたとき卒業する
学修支援等
(概要) ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者に対し三者面談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	人 (%)	14 人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 自動車販売会社、民間整備工場等			
(就職指導内容) 担任と就職担当職員が連携を取り、希望企業の斡旋をし、面接指導を繰り返す			
(主な学修成果(資格・検定等)) 自動車整備士国家試験合格率 92.8%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	2 人	7.4%

(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合、進路変更等
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が5%を超えた段階で担任とガイダンスを行い、その後、改善の見られない場合は教務責任者と保護者同席のもとガイダンスを行う。経済的な理由の場合は、副校長とガイダンスを行い、解決策を探す。精神的な問題の場合は、教員で対処できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備学科（3 年制）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2, 133 単位時間／単位	864 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	1, 269 単 位時間/ 単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			2, 133 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		60 人	59 人	7 人	人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100 点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 (卒業) 原則として教育課程表に定める科目を履修し、全科目「C」以上の評価をされている者に対し、校長は卒業を認定する 2 当該学年における年間出席率が90%以下の者は卒業できない 3 相当の事由がある場合で、卒業判定会議において認められたとき卒業する
学修支援等

(概要) ■個別相談・指導等の対応 欠席・法定アルバイト時間超過傾向の見られるものに対し、担任、留学サポート職員、副校長による面談等
--

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
11 人 (100%)	人 (%)	11 人 (100%)	人 (%)
(主な就職、業界等) 自動車販売会社、民間整備工場等			
(就職指導内容) 担任と就職担当職員が連携を取り、希望企業の斡旋をし、面接指導を繰り返す			
(主な学修成果（資格・検定等）) 自動車整備士国家試験合格率 90.9%			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80 人	2 人	2.5%
(中途退学の主な理由) 学校生活への不適合、進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が5%を超えた段階で担任とガイダンスを行い、その後、改善の見られない場合は教務責任者と留学生サポート職員同席のもとガイダンスを行う。経済的な理由の場合は、副校長とガイダンスを行い、解決策を探す。精神的な問題の場合は、教員で対応できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備学科（2 年制）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間		720 単位 時間/単 位	0 単位時 間/単位	1,269 単 位時間/ 単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
2 年		1,989 単位時間／単位	1,989 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50 人		21 人	0 人	7 人	人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 【様式第2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度3月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
（概要） 【様式第2号の3より再掲】 （成績評価に係る指標の算定方法） 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100 点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
（概要） 【様式第2号の3より再掲】 （卒業） 原則として教育課程表に定める科目を履修し、全科目「C」以上の評価をされている者に対し、校長は卒業を認定する 2 当該学年における年間出席率が90%以下の者は卒業できない 3 相当の事由がある場合で、卒業判定会議において認められたとき卒業する
学修支援等
（概要） ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者に対し三者面談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他

人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 担任と就職担当職員が連携を取り、希望企業の斡旋をし、面接指導を繰り返す			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が5%を超えた段階で担任とガイダンスを行い、その後、改善の見られない場合は教務責任者と保護者同席のもとガイダンスを行う。経済的な理由の場合は、副校長とガイダンスを行い、解決策を探す。精神的な問題の場合は、教員で対処できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門課程	自動車整備学科（3年制）	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	1, 989 単位時間／単位	720 単位 時間/単位	0 単位時 間/単位	1, 269 単 位時間/ 単位	0 単位時 間/単位	0 単位時 間/単位
			1, 989 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		57 人	56 人	7 人	人	8 人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 【様式第2号の3より再掲】 カリキュラム編成、授業科目の内容、方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設置し、業界団体や企業等からの意見・要望を参考にして本校の教育課程の編成について協議するための機関として位置づける。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを

校長が決定する。カリキュラム決定後、教務部が主体となり科目担当者を選出する。その後科目担当者がシラバス案を作成し、それを校長が決定する。作成したシラバスは毎年度３月にホームページにて公表する。
成績評価の基準・方法
(概要) 【様式第２号の３より再掲】 (成績評価に係る指標の算定方法) 学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目 についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100 点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 【様式第２号の３より再掲】 (卒業) 原則として教育課程表に定める科目を履修し、全科目「C」以上の評価をされている者に対し、校長は卒業を認定する ２ 当該学年における年間出席率が 90%以下の者は卒業できない ３ 相当の事由がある場合で、卒業判定会議において認められたとき卒業する
学修支援等
(概要) ■個別相談・指導等の対応 欠席・法定アルバイト時間超過傾向の見られるものに対し、担任、留学サポート職員、副校長による面談等

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 担任と就職担当職員が連携を取り、希望企業の斡旋をし、面接指導を繰り返す			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%

(中途退学の主な理由)
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠課率が5%を超えた段階で担任とガイダンスを行い、その後、改善の見られない場合は教務責任者と留学生サポート職員同席のもとガイダンスを行う。経済的な理由の場合は、副校長とガイダンスを行い、解決策を探す。精神的な問題の場合は、教員で対処できるレベルを超えた場合は外部カウンセラーに依頼する。

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
自動車整備学科（2年制）	160,000 円	1,000,000 円	270,000 円	
自動車整備学科（3年制）	160,000 円	760,000 円	178,000～ 162,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://web.anabuki-college.net/content/uploads/atk-rating1.pdf		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける ②自己点検評価の適正化、妥当性を客観的に評価する ③結果として、職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCA サイクルを繰り返す続ける 【学校関係者評価委員会規定より抜粋】 （委員の委嘱等） 委員会を構成する委員は、5名以上とし、本校の職員以外の者で次に掲げる者のうちから、校長が委嘱する。 （1）保護者 （2）本校の卒業生 （3）地域住民 （4）企業関係者 （5）高等学校関係者 （6）その他教育に関する有識者		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
一般社団法人香川県自動車整備振興会 職員	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員
野崎自動車株式会社 役員	令和7年4月1日～令和8年3月31日	企業等委員

	令和7年4月1日～令和8年3月31日	高等学校関係
	令和7年4月1日～令和8年3月31日	卒業生代表委員
	令和7年4月1日～令和8年3月31日	保護者代表委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://web.anabuki-college.net/content/uploads/atk-rating2.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://web.anabuki-college.net/departament/engineering/
--

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H137320100144
学校名（〇〇大学 等）	専門学校穴吹工科カレッジ
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人穴吹学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		-	-	-
内 訳	第Ⅰ区分	-	-	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	（うち多子世帯）	（ 人）	（ 人）	
	第Ⅲ区分	-	-	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	0人	0人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（ 0 ）人
合計（年間）				-
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が廃止の基準に該当）	人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意 欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良である
ことについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2 年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたこと
により認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	人	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)&及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	-
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。